



答弁中の平松町長

コロナ

コロナ対策と生活再建支援を

すでに議会で説明・了承済み

問

新型コロナウイルス感染が広がっています。8月26日時点の福岡県の感染者数は、4282人です。感染力の強い無症状の感染者が集い拡大しています。感染防止にはPCR検査の拡充、補償を伴う休業要請が必要で、郡内1カ所でドライブスルー等PCR検査が実施され、かかりつけ医師から

の「検査の必要あり」という人を対象に予約で実施されています。本町の病院でもPCR検査をすべきではないでしょうか。

答 諸石総務課長

コロナ支援策で小規模事業者に前年同月比30%売上減で10万円の支援だが、30%減少していない事業者にも支援すべきです。

糟屋郡内にPCR検査センターが設置され、かかりつけ医師の要検査要請で(週3回、1回あたり12人程度の)検査が実施されています。8月末現在、検査が満杯で予約が取れない状況ではありませんので、町内の病院での検査を拡充することは現在考えていません。

いただいています。医療機関のPCR検査、これ以上の企業支援は、今後の動向を見ても検討します。

町の各種支援策はこちらから



須恵町ホームページ



児玉 求 議員 (写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)

答 平松町長

コロナ対策をやっていく中で、これがベストだろうというのを議会へご提案し納得

また、小規模事業者応援給付金については、すでに対象となる期間を3か月延長して申請期間12月末から来年の3月末までとしています。この延長により、これから売上が減少して厳しくなる業種の方を救済していきます。

町政を問う！

一般質問

環境

空き家等の今後の対策は

早期に解決していきたい

問

町内各所に空き家が存在し、廃屋の長屋空き家が多数あります。老朽化により、倒壊している事案もあるため、所管の総務建設産業委員会で現地視察、調査を行いました。調査において、老朽化の進行が顕著で、早急な対応を図るべき事案を確認しました。町民の方が安心して生活するための対策を講じる必要がある

ります。

そこで、今後の空き家対策の方針を伺います。

答 平松町長

現在、町で把握している空き家は38件、うち老朽化しているのは18件です。廃屋の長屋については、早急に条例を整備し空家等対策協議会で協議を行い、それでも解決できない案件については、顧問弁護士等に相談し、早期に解決していきたいと思えます。

老朽化した空家の近くに住まいの住民の方の安全と財産を守るために有効な策を考



男澤 一夫 議員 (写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)



ひびが入ったブロック塀



倒壊した家屋